

株式会社大阪証券取引所 ナスダック・ジャパン市場
平成 14 年 11 月 6 日

各位

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社
代表取締役最高経営責任者(CEO) 角田雄二
(コード番号 2712)

問い合わせ先
オフィサー・管理部門長 平井 孝志
電話 03-5412-7481

中 長 期 的 成 長 に 対 す る シ ナ リ オ 厳しい消費環境による業績予想修正

今年度は国内外食・小売セクターの経済環境が厳しい状況にあり、当社においては、既存店売上高は予想以上の減少となりました。結果、スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役兼最高経営責任者:角田雄二)は、このたび、今年度の通期業績につきまして予想経常利益を 1 億 9 千万円、予想当期純利益を 5 億円へとそれぞれ下方修正いたしました。しかしながら、中長期的な出店ポテンシャルは 1,000 店舗以上あるとの見方に変更はございません。

当社はこれまで事業基盤の構築に重点をおいてまいりました。しかし、成長企業およびブランドとしては現時点ではまだ成長の初期段階にあります。現在、厳しい消費環境ではありますが、スペシャルティ コーヒー マーケットにおいて、今後ともマーケットシェアを維持・拡大し、継続的な成長を目指してまいり所存です。

今日現在、日本国内 31 都道府県に 416 店を出店し、現在掲げております 2003 年 9 月末までに 500 店舗達成は現実味を帯びてまいりました。

既存店一店舗当たり売上高が減少する中においても、その一店舗当たり平均売上高は 1 億 4 千 5 百万円と業界内では最も高く、新店一店舗当たりの売上高も依然高いレベルにあります。一週間に延べ 200 万人以上のお客様を我々の店舗にお迎えし、最もロイヤルティの高いお客様に至っては月に 20 回以上ご利用頂いている状況です。これらの事実はいまだスペシャルティ コーヒー マーケットが非常に大きく、当社の成長余地も大きいことを示唆していると考えております。

これら現状を踏まえ、収益基盤の強化のために早急な対策を講じることいたしました。売上高の改善、経費効率化に向けたさななる対応は当然のこととして、優良物件については引き続き確保しつつも、店舗ポートフォリオの見直しも行ってまいります。今後、短期的にはまだ厳しい環境は続くと考えられるものの、早急に対策を講じてゆくことにより、来期には黒字への回復を想定いたしております。

以上